黒田みちのたんぽぽだより NO235（2022年5月・6月）

ブログ　たんぽぽだより

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして
みんなが住んでよかったと思える川西市に・・・

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控え室 TEL740-1111(内線4020)
直通FAX759-1811
黒田みち事務所 TEL 795-4760
たんぽぽだよりブログ
http://kurodamich.exblog.jp

まちかどカフェトーク

おかげさまでもうすぐ200ヶ所、参加者800人に

時々の市政問題などで気軽に懇談　「何が話題になっているか」特集

「たんぽぽだより」でおなじみの黒田みちの「まちかどカフェ・トーク」。議会と議会の間、東谷中学校（大和・東谷・北陵・清流台含む）地域で開催し、もうすぐ200か所、参加者は約800人に達します。

今号では、まちかどカフェで話題になっている問題をまとめて報告させていただきます。（ただいま継続中）

気軽な場としてスタート

まとまった議会報告や懇談会は、会場周辺のスポット演説でお知らせし公民館などで開催していますが、もっと身近に、気軽に、いろいろな方々と双方向でお話しができるようにと2019年6月から「まちかどカフェ」をはじめました。

スタート当初、名称を「まちかどカフェ」、開催場所を「〇〇公園」としたところ、「公園で喫茶をするのか」と市に問い合わせが入るなどご迷惑をおかけしました。（すみません）

近くて参加しやすい

事前に開催日時、場所を一覧にしてお知らせしていますが、「家の近くなので参加しやすい。公民館は遠い」「近所でなくても都合の良い日に参加できる」と概ね歓迎。どしゃ降りの日でも傘をさして待っていてくださる方もあり、感謝しています。

新型コロナウイルスの感染拡大に配慮して、開催を見合わせたり1か所30分程度に短縮を余儀なくされたりしましたが、参加者からはもっと話がしたかったという声が多く、今は1か所50分程度に戻せてホッとしています。

毎月発行の「たんぽぽだより」だけでは伝えきれない、その時々の情報や関心事をお知らせし、地域の方の声をもっとお聴きできるように取り組んでいきます。

目下の関心、4つの資料

目下、「まちかどカフェ・トーク」は、4月27日から5月20日までの9日間、24か所で開催中です。

「地域公共交通・大和～山下～病院～平野間のバス便・料金改定について」

「清和台幼稚園の廃園、東谷幼稚園など公立の就学前教育・保育施設の今後について」

「（仮称）川西市舎羅林山産業団地開発事業・工事かわら版」

「総務省・病院統廃合を軌道修正、新聞記事」――の資料などをお持ちして、いろいろなお声を聴かせていただいています。

それぞれに工夫してくらしているのに、高齢になってからも将来への不安が聴こえてくるのは辛いこと。まさに政治の責任そのものです。娘さんや息子さんの働き方や給料のこと、現状を変えてほしい、がんばっているのだから報われてほしいと話が尽きません。

「知ること」「考えること」

私たちは、知ることで感じたり考えたりでき、質問や意見を述べることにつながります。

「知らない」ことは「起っていない」ことではありません。

「コロナ禍だから」と、市の説明会もなくなり情報が伝わりにくくなっています。

しかし、住民のためにならないと思われることを含め、市の計画は粛々と進められています。5月26日には、6月議会（6月2日～24日）の議案が出てきます。予定では、6月22日から参議院選挙がはじまりますから、7月10日の投票日までいろいろな規制の中での活動になってしまいます。さらにいろいろな工夫をして情報をお伝えし、ご意見をうかがいたいと考えていますので、よろしくお願いします。

バス停の近く「公共バス」が話題に

家計も考え片道だけ乗車も

「物価があがっているのに年金が減るでしょ。大和巡回の公共交通バスは乗る人が減るとなくなるから乗るけど家計の出費も抑えないといけないから片道だけ」

4～5月の「まちカフェ」はバス停の近くで多く開催。バスを待っておられる方、降りた方、カフェに来てくださった方、通りがかりの方からもバス存続を望むなど切実な声や要望が寄せられています。

街には公共バス必要

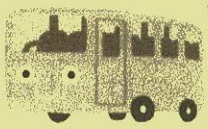
川西市地域公共交通会議で報告があったアンケート結果や減便、料金値上げの方向性などをお伝えして懇談。「バスがなくなったら困る。駅まで歩けない」「交通費補助がなくなって、市の交通政策はどうなっているのか」「まちづくりにバスなど公共交通は必要」「バスのことは地域でもがんばってもらっている」「牧の台・行政センターなど公共施設にはバスを走らせてほしい」といった声が多く寄せられました。

駅に近いから関係ない？

一方で最寄り駅に近い方や「私は歩けるから関係ない」という声も。情報や受け止め方は地域や個人によって異なります。

私は大丈夫だけれど、困っている人がいる・・・。想像して寄り添い、声をあげ行動し、すべての人が大切にされる社会へ。今あるものを壊すことは簡単ですが、なくなったものを新たにつくることは困難です。短期的な「効率」ではなく、どんなまちにしていくのかを、知恵と力を出しあいましょう。

「北部ことを考えているのか」



「病院もなくなり、北部診療所計画も反故に。川西市は北部のことをどう考えているのか」「幼稚園をなくすなんて考えられない。人口が減ることばっかりしないで、増やすことを考えてほしい」。

北部の住民からすれば、この間の市の施策や進め方に憤りと怒り、不安を募らせています。「何を言ってもダメ」と諦めておられる方もありますが、「しつこいけれど諦めないで一緒に声をあげていきましょう」と呼びかけています。

2面につづく